

**小山企業 「埼玉総合物流センター」を増床し、9月1日から運用開始
同地区3つの物流拠点を“機能別”に分け、人員を効率的に配置**

小山企業（本社・埼玉県戸田市、小山嘉一郎社長）では、「埼玉総合物流センター」（埼玉県草加市）を増床し、9月1日から運用を開始した。同センターは2010年に開設した24時間稼働可能な同社最大級の物流拠点で、3階に加え、1階を新たに賃借したもの。13年10月に同センターの向かいに「草加第3センター」を開設しており、同地区で運営する物流拠点の規模は約4万平方メートルになる。同地区に集約された3つの物流拠点を“顧客別”でなく“機能別”に分け、人員を効率的に配置することによって、スケールメリットを実現しながら顧客のニーズに柔軟に対応していく考えだ。

同社では10年2月、草加市青柳でランプウェーを備えた賃貸用大型物流施設の3階部分（約1万3000平方メートル）を賃借し、「埼玉総合物流センター」をオープン。当初から、24時間稼働可能な首都圏および主要都市への共同配送拠点としての運用を目指してきた。大型物流センターの開設と併せて運送機能の強化を図り、アパレル専門店への共同配送拡大や食品メーカーからTC・DCセンター業務を受託するなど新たなビジネスを獲得した。

13年10月には同センターの向かいの賃貸用物流施設の5分の2（約1万2000平方メートル）を賃借し、「草加第3センター」を開設。アパレル専門店の物流拠点を同センターに集約した。さらに今年9月から「埼玉総合物流センター」の1階（約1万3000平方メートル）を新たに賃借し、新センターとして運用開始。1階は両面バースでトラックヤードが充実しており、1階はTC、既存の3階はDCとして運用していく。

1階のTCでは、食品メーカーの新規貨物や「草加第3センター」で扱っていたアパレル専門店の高回転貨物を扱う予定となっている。「草加第3センター」は在庫型の物流に適した「ボックス型倉庫」の特徴をいかすため、同アパレル専門店の通販貨物を誘致。通販貨物については物量が急拡大していることから、従来は埼玉県戸田市の別拠点で管理していたが、「草加第3センター」に統合する。

小山企業では9月以降、「埼玉総合物流センター」（3階、1階）および「草加第3センター」について「24時間稼働」「土日稼働」の体制を構築するため、交代制勤務を導入。通販貨物の365日出庫、食品メーカーの夜間クロスドック業務などに対応するのが狙い。倉庫作業に従事する人材不足が深刻化する中、倉庫の稼働時間を長くすることによって、業務を平準化し、人材を採用しやすくする。

小山社長は「倉庫の坪あたりの収益を考えた時に、賃借物件は原価（固定費）が決まっており、稼働時間を長くすれば受注できる仕事の幅が広がり、収益拡大につながる。業務体制についても、出庫は通常の日中時間帯に処理する必要があるが、入庫については夜間にシフトするなど柔軟な対応が可能になる」と説明。交代制勤務に関しては「業務の引き継ぎや業務フローの是正など難しさもあるが、円滑に導入を進める」とした。

【カーゴニュース 2015年9月1日号】